



原典「平家物語」を聴く会

第三号
平成十九年・神無月

「平家物語の夕べ」特集号

インタビュー

私と「平家物語」

私の役者としての軸になるような、ライフ・ワークになるかもしれないと……

〔女優〕

若村麻由美さんに聞く

様々な女性像を繊細に時に大胆に演じ、舞台、テレビ、そして映画と活動の幅を広げる気高く清楚な美しさと凛々しさの絶妙なバランスが魅力的な女優、若村麻由美。新作DVD原典「平家物語」では「小宰相身投」の語り出演、10月11日の「平家物語の夕べ」国立能楽堂公演では「小宰相身投」木曾最期」に出演する。

昨年は全国七ヶ所で公演され好評を博した「平家物語の夕べ」小宰相身投」。今回三回目の公演を国立能楽堂で再演されますが、毎回その凄まじいセリフ量を原文のままだった一

人で語られるのは大変な事だと

感じますが

初めて読んだ時は意味もよくわからない状態

能舞台には計算つくされた宇宙観が……



「小宰相身投」は、愛を貫く女性の話で内容は現代にも通じていますから、自分の体を通して音にしていくと、劇的な

ドラマ性を実感できました。原典という難しい言葉ではあります、想像したより覚えやすかったです。

それはやはり「平家物語」がもともと琵琶法師が語り継いだ「語りもの」という事で、声に出すのにふさわしい文章だからだと思っています。

能舞台は普通の舞台と何か違いを感じますか

能舞台では、鎮魂の作品が多く上演されますから、平家物語にふさわしい空間だと思いました。

初めて舞台上に立った時には、跳ね返されるような緊張感がありました。いざ舞台上に立ち語り始めると、三六〇度から包み込まれるようなあたたかさを感じて、平家物語の世界に私自身も誘ってもらえた気がしたんです。能舞台には時空を越え

た宇宙観が存在しているのかもしみませんね。

原典「平家物語」に挑戦されて今感じている事は

平家物語には、あらゆる人間の、情けなくも人間らしい部分と、自分はこうありたいという願いと葛藤や、生死にかかわる極限状態が描かれていて、作品の大きさと深さは計り知れない怪物だという気がします。その怪物に何度も立ち向かっていくんですが、なかなか思い通りにはいきません。

それが古典の持つ力なのでしょう。

演劇の源とも思えるような平家物語に臨むことは、役者として大変勇気のある事ですが、未熟なりに今今の自分の「小宰相身投」を具現化できることを、幸せだと思います。

今回の公演では「木曾最期」

にも初挑戦されますが

「木曾最期」では、野村万作さん（人間国宝）と同じ舞台上に立たせていただく機会を与えていただき、信じられません。目には心に刻みつけたいと思います。最後に一言

同じ作品を年に一度させていただけということ、この一年間自分がどのように過ごしてきたかがさらされてしまう恐さもありですが、今後、私の役者としての軸になるようなライフワークになるかもしれないとも感じています。

【若村麻由美 プロフィール】無名塾出身。NHK連続テレビ小説「はっさい先生」でヒロインとしてデビュー。現代劇、時代劇を問わず表現のジャンルを超えて異彩を放つ実力派女優。今秋10月11日には、「平家物語の夕べ（国立能楽堂）」、人間国宝の野村万作氏との共演による原典での語り芝居。10月23日からは「みすゞとテルと母さまと（サントリー小ホール）」にて母ミチ役を演じる。11月東京・12月大阪にて「カリギュラ（シアター・コクーン）」演出家蜷川幸雄氏の舞台に初出演。ヒマラヤトレッキングをきっかけに水文化委員（国土庁）や富士山清掃隊長を務めるなど自然環境への活動も10年目を迎える。http://www.syunca.com/

三人で演じることにより 良き意味での緊張感が

これまで何度も「平家物語」に挑戦されていますが、今度はまた新たな作品を演じられますね

「これまで狂言役者、能役者さんをはじめ、様々な方たちと「平家物語」に挑戦してきました。今回は「木曾最期」に野村万作先生にご出演いただき、万作先生の本曾義仲を中心として、同じ狂言の石田幸雄さんが今井兼平、若村麻由美さんに巴という役で、三人の若き男女が戦の中を駆け抜け、それぞれの思いで散っていくというドラマティックな木曾義仲の最期の部分をより立体的な形にしたいと思っています。この三人で演じることによって非常に良き意味での緊張感が出て、より作品が豊かに見えてくると思っています」

『景清』『実盛』の章段

「景清」は万作先生に、「小舞」として表現していただきます。「平家物語」から「景清」の部分で、狂言がどのように六百年に渡って表現してきたか、役者が「物語りつつ動く」という、演劇の一番本質的な形というものが、この古典の表現から見えてくるのではないかと思えます。

「『実盛』は、七十にあま

名舞台！進化する 「小宰相身投」

若村麻由美さんによる『小宰相身投』は再演を重ね、今回で3回目の公演です

「『平家物語』の女性の語りものの中でも小宰相の最期というのは非常に緻密に書かれていて、夫の忘れ

「『実盛』は、七十にあまって戦に出る実盛が、老武者とあなどられまいと自らの白髪を墨に染めて戦に出る話です。その戦いの部分で岡橋和彦さんに演じてもらいます。岡橋さんとは以前『敦盛』で一緒に立体化した一人芝居を作りました。その『敦盛』は、十六才の青年・敦盛とそれを討った熊谷次郎直実の二人の関係を描いているのに対し、今回の『実盛』は老武者、実盛一人を中心にして老武者の気骨を表現した作品になっています」

形見を育て夫の菩提を祈るのが女の務めだという乳母の説得を振りきり、身ごもっているにもかかわらず夫に殉じて入水して果てるといふ女性の思いの深さが見事に描かれていて、それを

若村麻由美さんは初演以来、自分の中の課題を感じながら進化し続けて演じています。悲しみが表に立つというよりもっと深い所での悲しみ、人の魂の奥行き極み…。鎮魂としての芸能の一番深い所まで降りその果てに到達できればと思います。若村さんはそれをやりきるだけの力のある女優さんですから、今回そこを目指していきたいと思えます」

今回の舞台も観どころが盛り沢山です

「やればやるほど『平家物語』の奥行きや魅力がそれぞれの演者たちの蓄積した力によってどんどん進化していく。今回もこの『平家物語の夕べ』で、私たちが日本人が忘れてはならないもの、芸能の原点、人間の生死の一番の根源の所を深いつりかえり立ち会っていたい。きつと深い感動を感じていただけるだろうと思っています」

◆笠井賢一[かさいけんいち]プロフィール

高知県生まれ。今尾哲也氏(歌舞伎研究)に師事。八世坂東三津五郎秘書として著作の助手を務める。現在は、「鏡仙会」で能のプロデュースの仕事に従事。また劇作、演出家として古典と現代をつなぐ演劇活動を、能狂言役者や現代劇の役者、邦楽・洋楽の演奏家たちと続ける。その素材は「源氏物語」「平家物語」を核に、シェイクスピア、近松門左衛門から泉鏡花、宮澤賢治に至る。名古屋・岐阜NHK文化センター講師(日本芸能史)。'07年10月11日/国立能楽堂「平家物語の夕べ」を演出。



シンセサイザーとの競演 による「芝居・平家物語」

「平家物語の夕べ」ではいろいろなジャンルの芸能による「平家物語」を公演していますが、内池さんが今回演出される作品はどのようなものですか

ご覧頂く演出は「祇園精舎」「宮御最期」「小教訓」「文之沙汰」「副將被斬」「廻文」で、演目としてはバラエティーに富んでいますね。今回はそれを、語りや朗読というより、お芝居の様に演者の方に演じていただきます。お芝居の舞台というのは、きちんと演者が自分の言葉に消化して語ってもらいたいと思いますので、三人の演者さん全員（中西和久・緒川たまき・岡橋和彦）に原文の平家物語の文章をきちんと覚えてもらって、お芝居のように演じてもらいます。

お芝居のような舞台に音楽が重なって…

そうですね。やはり琵琶は聴きたいですね。それに付け加えて、現代の音であるシンセサイザーを使って

音楽と効果音を舞台上で演奏してもらいます。演奏は今年お亡くなりになった植木等さんのご長男であり、現在NHKを中心にあちこちで引つ張りだこの作曲家・比呂公一さんにお願ひしました。

音楽として「平家物語」を語って頂きます。これは面白いです。ライブですから、何が起るか判らない。比呂さんは大変多忙な方ですが、変わった試みが面白いということ、出演を承諾頂きました。「音」で語る。しかもシンセの音で…

そうですね。音を作曲していただき、語っているように演奏してもらいます。それは楽しみです。『平家物語』の音をシンセサイザーで作って頂くんです

そうですね。舞台上上がって頂いて音で語っていただくのです。今回、石笛の演奏もあります。どのよう

のですか

楽器というより珍しい存在のものですね。天然石で笛の音が出るというのが凄いですし、しかもそれは普通の楽器と違って神懸りを表現する時に古来から使っている楽器なんだそうです。そこで今回は石笛の存在を単に舞台の上のせるのではなく、意外な所に置いて場内を浄めつつ公演するということ、ちょっと変わった趣向を考えています。

神が芸能者に降臨した時に素晴らしい舞台になると

よく聞きますが、石笛の存在によって、今回の演者の方たちに神が降臨するのは間違いではないですね。いろいろな所を浄めるという事は、鑑賞するお客様にも神が降りてくるかもしれないですね

そうですね。ですから石笛を置く場所は舞台の役者さんよりもお客様寄りの所に置きたいと思っています。舞台の音と客席の方から出てくる神懸りの石笛の生音がサラウンドになるとい僕自身あまり経験のない事に挑戦しています。

古典を自分の言葉で語るユニークな舞台

面白い舞台になりそうですね！『平家物語』は能、歌舞伎、現代劇といろいろな変化をきていますが、今回また新たな芸能形態の『平家物語』の誕生ですね

基本的な古典芸能の表現による澄んだ日本芸能の良さというの好きですけど、それだけでは物足りないんで、それで僕は少しだけ現代的なものも取り入れて、中学生や高校生にも、へー

結構新しいじゃない！という感じで観てもらおう事も大事だろうと思っています。今回出演していただく中西和久さんは、古典を自分の言葉でいきなり語り出すという事が得意な方なんです。舞台の上でいきなり本編の解説をし出しますんで、これはちょっとユニークだし面白くて分かりやすい舞台になると思いますよ」

◆内池望博[うちいけもちひろ]プロフィール

東京・浅草生まれ。(株)東北新社顧問。「奥様は魔女」「スパイ大作戦」など、多くの作品の吹き替えディレクターとして活躍する他、CMディレクターとしては「松下電器」で愛川欣也氏、「日清どん兵衛」で山城新伍、川谷拓三の両氏を発掘しスターにする。映画「陰陽師2」プロデュース他手掛けた作品は数知れず現在も映像・舞台演出家として活躍中。'07年10月27日・28日/六本木 俳優座「平家物語の夕べ」を演出。



ご案内



野村万作

◎「**祇園精舎**」(ぎおんしょうじゃ) …「平家物語」は、平家一門の栄華と没落を描いた、平安末期のおよそ七十年間の物語です。平家物語全編に渡る深淵で宇宙的なテーマを謳いあげた、冒頭の章段「祇園精舎」を、薩摩琵琶鶴田流の演奏家、岩佐鶴文の琵琶語りでお聴き下さい。

◎「**狂言小舞「景清 後」**」(きょうげんこまい かげきよ) …屋島の激戦の最中、平家方の猛将、悪七兵衛景清と源氏方の三保谷四郎の二人が兜の鍔を引き合って力比べをした「平家物語」の名場面を狂言界の至宝、野村万作の小舞でご覧いただきます。

◎「**実盛**」(さねもり) …最期の戦いに臨むに当って、老武者と侮られまいと「鬢鬚を黒う染めて、若やがうど思うなり」と平生語っていたとおりに実行し、その首をあらためた敵将義仲をして、

涙させた古つわもの斉藤実盛の気概と悲哀を岡橋和彦の芝居語りで見現します。

◎「**小宰相身投**」(こさいしょうみなげ) …一の谷の乱戦の中で討死した平通盛。屋島へ落ち行く船中で夫の死を知らされた女房小宰相は、身重の身にもかかわらず入水を決意。乳母にも告げず、春の夜の朧に霞む海原に身を投げます。あまりに美しく、あまりにも悲しい女人の劇が若村麻由美の演技で甦ります。

◎「**木曾最期**」(きののさいご) …朝日將軍源義仲のあまりにも早い落日。最後まで生き残った義仲、兼平、巴。しかし義仲は巴に「去れ」と厳命。巴は女ゆえに共に死ねない辛さを嘔みしめ、最後の戦をし、落ちて行く…残った義仲の討死と兼平の壮絶な自害。激動の時代を猛烈な速さで駆け抜けて行った三者の生死の極みを、野村万作・若村麻由美・石田幸雄の三人が縦横に物語ります。

10月11日
国立能楽堂
公演



若村麻由美

平成十九年度
文化庁芸術祭参加公演

10月27日
10月28日
六本木俳優座
公演

◎「**祇園精舎**」(ぎおんしょうじゃ) …平家物語は、平家一門の栄華と没落を描いた、平安末期のおよそ七十年間の物語です。その冒頭の章段となる「祇園精舎」は、平家物語全編に渡る深淵で宇宙的なテーマを謳いあげています。その全段を、喜多郎の音楽とともに中村吉右衛門の語り(映像)でお楽しみ下さい。

◎「**宮御最期**」(みやのさいご) …以仁王と源三位頼政の挙兵を聞いて急襲した平家軍と、平等院に立て籠もる頼政勢の戦いは、平家方の足利忠綱の活躍により戦況が一変します。終に宮は討たれ、頼政も自害してその挙兵は潰えるのです。平家物語中でも屈指の戦闘・色彩・装束描写に彩られた名章段です。一人芝居の荒武者、中西和久が「平家物語」に初陣!

◎「**文之沙汰**」(ふみのさた) …壇ノ浦合戦後、生け捕りとなった平時忠は、わが身に不利な証拠となる文書を取り戻すため、娘を義経に嫁がせ、無事に取り戻します。情の人、義経の評判は都で日々高くなりますが、次第にそれが頼朝との対立を生んでゆきます。緒川たまきの繊細にして華麗な語りで見現。

◎「**副将被斬**」(ふくしょうぎられ) …生け捕りとなり鎌倉へ下される平宗盛は、末子「副将」に会いたいと義経に嘆願し、再会を果たします。運命に翻弄される悲運の親子の情愛と戦の無情を、緒川たまきの情感豊かな語りと岩佐鶴文の哀切な薩摩琵琶が表現します。

◎「**小教訓**」(こぎょうくん) …日々横暴の度を増すばかりの清盛を、嫡子重盛が確かな見識を以て諫め、能弁を以て屈服させる、語り芸としての痛快さ。後世の演劇様式の一つの典型をなす名章段を、劇団民藝の岡橋和彦の熟練の演技語りで見現!

◎「**廻文**」(めぐらしぶみ) …源三位頼政の挙兵後も変わらぬ平家の専横。各地の不満分子は不穏な動きを止めません。そんな折、信濃の国に源為義の孫、木曾の義仲が挙兵します。破天荒なヒーロー木曾義仲がついに起ちあがる、まさに「その時」を中西和久が生き生きとダイナミックに演じます。



岡橋和彦



中西和久



緒川たまき

チケットのお申し込み・お問い合わせ

■CNプレイガイド [オペレーター対応] TEL 0570-08-9999 <http://www.cnplayguide.com/> (PC、モバイル共通)

●チケット発行店…CNプレイガイド、CNプレイBOXのあるコンビニ、am pm、SAVE ON、JR東日本びゅうプラザ、セブンイレブン

■原典「平家物語」を聴く会 TEL 03-6673-3863 (電話ご予約時間 10:00~18:00)

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-10-8 ●Eメールによるお問い合わせ heike@hagoromo.com



↑CNプレイ
ガイド用
QRコード